

日本郵便株式会社発行、平成切手－2014年シリーズ (封書 82円時期)の普通切手小型シート

郷 康弘

もう、封書が110円になり、落ち着いてきましたが、2015年2月2日に、82円封書時期に付随する小型シート2種が、普通切手帳に収められて発行されました。

それによると、1998年に全面的なデザインの見直しを行って以来、約17年ぶりにデザインの統一性を図り、普通切手のデザインテーマは、「日本の自然」です。2円から50円を「動物・子動物」、52円から140円を「花・花びら」、205円から1000円を「景観」として、「日本を想起させるもの」を題材に使用しています。

当時、発売されたシートは、この2種(下図と表紙)で、それぞれカタログ値は、1000円(額面は3円と2円)、6000円(額面は1000円が2枚)です。

普通切手の小型シートは、1994年3月29日に発行された1994年シリーズのメジロ、ヤマセミの2種の小型シートに次いで6番目です。

また、高額額面1000円普通切手としては、新動植物国宝図案切手Ⅲ1972年シリーズの小型シート「吉祥天立像」以来、2回目です。額面2円・3円の小型シートは、計5円で最低です。



郵便局の民営化は、2007年10月1日で、日本郵便株式会社は、2014年に始まったのですが、この頃には、私個人的には仕事も辞めて無職者でした。それで、当時は、朝9時には、熊本中央郵便局に行ったものでした。その時、数に制限がありましたが、無事に購入することができました。

その頃は、郵趣も再開して、この熊本支部に再入会して余暇を好きな趣味に過ごしていたら、100年以上の歴史がある切手に対して、急激なSNSの進歩・繁栄もあり、郵趣は寂れるのを肌で味わい、目下、集めた手元の郵趣切手の品々を終活のために、少しずつ処分して現在を過ごしています。何かに没頭出来た人生だけでも、幸いだと思います。

この小型シートを含む切手帳も、客離れで喘ぐ日本郵便株式会社が、郵趣ファンを振り向かそうとして、発行した商品だったのかも知れません。が、もう、従来の記念切手も、グリーティング切手、ふるさと切手と細分化されましたが、切手の乱発も収まりつつあるようで良いことだと思います。

この小型シートが発売された当時も、懐かしい思い出に変わりつつあります。

「普通切手帳 (2015.2.2)」の概要

岩松 健一

販売価格：5,000円（額面合計額 4,007円）

発売部数：20,000部

商品構成：普通切手 18券種各1枚、普通切手小型シート 2枚（2円・3円の小型シートは目打あり、新旧1000円のシートは無目打）

販売局：全国の中央局など初日印使用の定例61局で発売（その他の局では、取り寄せによる販売）

- ・普通切手帳の小型シート地には、「普通切手刷新 2015年（平成27）年2月2日」の文字が印刷され、シートごとにシリアルナンバーが印刷された特別仕様となっています。また、小型シートは、普通切手帳用に発行されるもので、小型シートのみでの販売は行われていません。